

## 賛美の犠牲

**鍵となる節：**「それゆえ、私たちは彼によって、  
神に賛美の犠牲を絶えず献げよう。すなわち、私  
たちの唇の果実として、その名に感謝をささげる  
のである。」

ヘブル人への手紙13:15

**選択された聖句：**

ヘブル人への手紙13章12節～21節

今日のレッスンでは、使徒パウロはイエスの犠牲と奉仕、そしてその足跡をたどる教会（信徒）の犠牲と奉仕について語っています。その際、パウロは出エジプト記とレビ記に詳細に記されたイスラエルの幕屋における奉仕と献げ物に言及しています。パウロは次のように述べています：「私たちは祭壇を持っています。その祭壇の奉仕者たちは、その祭壇の食物を食べる権利はありません。大祭司が罪のために聖所へ血を携えて入る獣の体は、陣営の外で焼かれる。イエスもまた、ご自身の血で民を聖別するため、門の外で苦難を受けられた。だから、私たちは

陣営の外へ出て、彼の恥を負いながら、彼のもとへ行きましょう。」 - ヘブル人への手紙**13:10-13**

パウロは、私たちの鍵となる節で記録されているように、イエスの弟子たちに、神に「賛美のいけにえ」を絶えず捧げるよう励ましています。彼はこのいけにえを「私たちの唇の果実として、その名に感謝を捧げるもの」と説明し、さらに「善を行ない、分かち合うことを忘れるな。なぜなら、そのようないけにえは神に喜ばれるからである」と付け加えています。 - **15,16節**

この使徒の言葉は、幕屋にある金の香炉の炭に振りかけられた香が、甘い香りを放って至聖所まで届き、神の臨在を表すことを思い出させます。（出エジプト記**30:1-8**）確かに、賛美の犠牲、私たちの唇で神に感謝し、善を行い、互いに交わること、これらは香りのように、私たちの天の父への甘い香りです。別の箇所では、パウロはこのような捧げ物を「甘い香りの香り、神に受け入れられ、喜ばれる犠牲」と述べています。 - フィリピ人への手紙**4:18**

私たちの主題の別の側面について、使徒は次のように書きました。「なぜなら、彼が[イエス]死んだ時、彼は罪に対して一度死んだからです。...同様に、あなたがたもまた、罪に対して本当に死んだ者とみなせ。」（ローマ人への手紙**6:10,11**） 私たちは、

パウロが私たちに、私たちの罪への死が、肉においてまだ不完全であるため、計算上の事柄であることを思い出させてくれることを喜んでいます。しかし、イエスの血が私たちのために帰せられたため、私たちは、私たちの犠牲と 奉仕を「神に受け入れられる聖なるもの」と計算する神聖な権威を持っています。 - ローマ人への手紙**12:1**

これは、私たちに与えられた素晴らしい特権であり、高い栄誉です。そして、キリストの血が私たちの犠牲を神に受け入れられるものとするという信仰を持つからこそ、私たちはこの祝福された役割の現実を理解することができるのです。私たちはパウロのように信じることができます。「私たちは自分自身から何かを思うに足るものではありません。しかし、私たちの十分さは神から来るのです。」(コリント人への第二の手紙**3:5**) 私たちは、私たちのアダムの欠点がキリストの義の衣で覆われているという確信を受け入れることができます。そして、私たちはキリストの唯一の体のメンバーとして、神に受け入れられるのです。 - イザヤ**61:10**; ピリピ人への手紙**3:9**; コリント人への第一の手紙**12:12,27**

したがって、私たちは毎日、神、その真理と正義の御業、そしてキリストにある兄弟姉妹に対して、奉仕と犠牲に励むべきです。また、この世の貧しく苦

悩める被造物に「神の国の福音」を宣べ伝えることにも励むべきです。（マタイ**24:14**）「このような犠牲によって、神は喜ばれるからです。」このように、私たちの「賛美の犠牲」は、愛する天の父と、その子であるキリスト・イエス、私たちの主に栄光と誉れをもたらすでしょう。